

ホタル考 ②

闇の中を明滅し飛翔するホタルに喚声があがるとき、暗い川底でひらひらと生きているカワニナが、その立役者であることを多くの人が忘れていた。カワニナはホタルの幼虫の工サになるらせん状の殻と蓋をもつ巻貝で成長する。二センチメートルくらいになるころにわたっているが、厳しい生活環境を反映するかのようにはとつどの殻がその先端を削られていくのでそれよりも短い。殻の表面には細かい縞があるが、それぞれ異なる趣がある。

カワニナは卵胎生で母貝は冬を過ぎ、毎日数個から十数個の母貝と同じ形をした0.5ミリメートル程度の稚貝を生む。稚貝は数週間しては膨大だがホタルの幼虫やサワガニなどの餌となるほか洪水などの被害を考えば、いれくらし生まないところのちを繫ぐカワニナが出来ないうちでも知らないうち。

がホタルの幼虫との運命的な出会いとなる。一、五ミリメートルの孵化したホタルの幼虫は体の大きさに見合うカワニナを探し食し成長していく。

同じ場所にさまざまな大きさのカワニナが生息してこそ幼虫の成長を支えられるのだ。カワニナの動きはカタツムリと同じで鈍い。常に川の流れに逆らい上流へと向かう習性がありゆつりと移動する。

川底の石を乗り越え乗り越えて苦難の道は続く。

ホタルの幼虫やサワガニの餌になるために生まれ来るカワニナは食べられることを美徳としているのかも知れないなどと思ったりしますが、そんな時もカワニナは上流をめざし急流に流されまいとひたすら這い上る。くはくはと這い上るカワニナである。



カワニナ

まつり お正月飾り?

8月下旬、三沢地域の田んぼで稲

の青田刈りが行われました。

シルバー人材センターが毎年秋のふれあい祭会場や道の駅、長生荘で販売しているシメ縄などの正月飾り材料となる稲ワラの収穫です。

田植はお米になる稲と一緒に稲穂で刈り取りは穂が出る前の8月終わり、晴天が続く時期です。

天日干しの後、建物の中で扇風機などで乾燥させます。なにせ色が命です。品種は古代米だといひます。出来上がりを「期待ください。」



お正月飾り

8月28日付みな民報 秩父音頭まじりの記事の中で第一会場 矢尾前のお囃子は 習野社中とありましたが、正しくは 習野民族芸能奏楽研修会でした。

お詫言ひ申し上げます。

知子のひびき

常山 知子



以前「みな民報」に「太陽光発電が増えているネー」という記事を書きました。覚えていますか？

登谷山牧場の下の方に住む人から大規模な太陽光パネルを設置している」と連絡があり現場に行ってみました。それが5月中旬のことでした。ところが今度はそのパネルが、もっと広い規模で開発が進んでいました。

小さな山一つの南斜面の木がすべて切り倒されていました。作業している人に大きな声で「何が出来るんですか?」「太陽光」という返事でした。丸坊主になった斜面に太陽光パネルが設置されるのです。大雨が降った時土砂災害が起る危険性。大風が吹いてパネルが吹き飛ばされるのでは?心配がきません。自然エネルギーの活用は大事ですが、山を切り開いて災害の危険が懸念される所に出した物が出来るのはどうしても心配でなりません。

**戦争法（安保法制）廃止の
国民連合政府を！
野党は選挙協力を！**

**生活・法律相談 お気軽にご相談下さい
町議会議員 常山 知子
電話・FAX 62-673**